

中央区地域健康福祉計画の進行管理 目 次

	ページ
中央区地域健康福祉計画の目標	1
赤ちゃん誕生お祝い会支援事業<中央区特色ある区づくり事業>	2
避難行動要支援者対策	3
話そう・つなごう・あなたの想い 終活きっかけ作り事業<中央区特色ある区づくり事業>	4
あんしん連絡システム事業	5
高齢者等あんしん見守り活動事業	6
地域包括支援センター運営事業	7
老人憩の家の活用	8
障がい児者基幹型相談支援センター事業	9
地域活動支援センター事業	10
成年後見支援センター事業	11
地域子育て支援センター事業	12
児童虐待防止啓発事業	13
みんなでつながるにっこにこ子育て応援事業<中央区特色ある区づくり事業>	14
糖尿病予防事業<中央区特色ある区づくり事業>	15
特定健康診査やがん検診など各種検診の実施とPR	16
食生活改善推進委員, 運動普及推進委員の育成と活動支援	17
生活困窮者自立促進支援事業(中央区保護課)	18
子ども学習支援事業(中央区保護課)	19



中央区ヘモグロビン
エーワンシー普及犬
エワン

中央区健康づくりサポーター
なかちかこ
中央子



中央区地域健康福祉計画の目標

目標1 支え合い、助け合う地域づくり

- ① 地域のつながりを広げよう
- ② できる取り組みから、地域で福祉の輪を広げていこう
- ③ 地域の住民だけでなく、事業者等へ参加の呼びかけを広げよう
- ④ 地域で子どもの成長を支えよう

目標2 仲間づくりができる交流の場づくり

- ① 高齢者の交流の場をつくろう
- ② 子育てを地域で支え合う交流の場をつくろう
- ③ 障がいのある人との交流の場をつくろう
- ④ 世代を超えた、地域交流の場をつくろう

目標3 いつでも気軽に相談できる仕組みづくり

- ① 必要な人に必要な情報を伝えよう
- ② 利用者の権利を守ろう
- ③ 生活困窮者の自立を支援しましょう

目標4 健やかでいきいきと暮らせる地域づくり

- ① 自分の生活習慣を見直し、健康の保持・増進に努めよう
- ② 健康づくりへの意識啓発と予防活動をすすめましょう

目標5 安心・安全に暮らせる地域づくり

- ① 災害時要援護者と支援者の顔が見える関係をつくりましょう
- ② 防犯・防災体制をつくろう
- ③ 誰もが安心して生活できる地域にしましょう

事業達成度

- 5: 求められる水準をはるかに上回る業績を収めた。
- 4: 求められた以上の業績を収めた。
- 3: 求められた業績を概ね収めた。
- 2: 求められた水準を下回る業績しか収めることができなかった。
- 1: 求められた業績をほとんど収めることができなかった。

事業名	赤ちゃん誕生お祝い会支援事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞					
担当係	地域福祉担当					
目標No.	1・2・3					
事業目的	赤ちゃん誕生を機に、地域の子育て中のママ・パパ同士だけでなく、そのほかの地域住民との交流を深め、地域全体での子育て支援と、多世代が交流できる環境づくりを進める。いずれは、地域の子育て世帯が、地域の茶の間を気軽に利用できるようになることを目指す。					
R1年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・開催団体数9団体 ・赤ちゃん申込み数105人 ・アンケート満足度85% ・地域との交流が持てた人の割合80% 					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
開催団体数 赤ちゃん参加数 (申し込み数)			7団体 85人 (93人)	8団体 116人 (137人)	7団体 100人 (110人)	
アンケート結果 満足度			91%	98%	97%	
R1年度後期の 取組と評価	<p>地域に働きかけを行い、10団体(新規2団体)から申請をいただいたが、感染症の影響で3月開催予定だった3団体のお祝い会が中止となった。</p> <p>お祝い会開催時のアンケートのほか、前々年度からの参加者全281世帯へ現在の地域との交流状況についてアンケートを送付。QRコードで簡単にアンケートに答えられるよう工夫した。回答数107件のうちお祝い会開催後に地域と交流のあった世帯は約44%、機会があれば交流したいと回答した世帯は約31%だった。</p> <p>お祝い会が中止になったものの10団体の申請とアンケート満足度で目標は達成されたため達成度は【3】とする。</p>					
達成度 【3】						
R1年度の課題	<p>前年度に目標としてあげた、事業終了後の参加者向けアンケートの実施と、新規団体(2団体、来年度開催予定1団体)の発掘は達成された。</p> <p>お祝い会開催後に地域と交流した世帯が思ったより少なかった。今後どのように増やしていくかが課題。</p>					
R2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・開催団体数11団体 ・赤ちゃん申込み数130人 ・アンケート満足度85%以上 					
今後の方向性	お祝い会開催団体を増やしていくとともに、お祝い会参加者を地域の茶の間や子育て講座へ促していく。					

事業名	避難行動要支援者対策 (旧制度名 災害時要援護者対策)					
担当係	地域福祉担当					
目標No.	1・5					
事業目的	高齢者や障がい者，要介護者など災害時に自力で避難することが困難な方の名簿を地域の自主防災組織に配付し，災害時に支援する。					
R1年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・年2回の名簿更新を行う。 ・登録勸奨の文書を丁寧でわかりやすいものに変更する。 ・民生委員の改選年度であるため，新規民生委員に制度の丁寧な説明を行う。 					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
中央区名簿登載者数(人)	6,034	5,421	5,087	4,481	4,366	
中央区自主防災組織結成率(%)	83	84	85.4	85.7	85.8	
R1年度後期の取組と評価	<p>予定通り，6月・12月に名簿の更新を行った。 各地で災害が続いたことにより，当制度についての関心も高く，窓口での申請受付や電話での問い合わせが増えた。</p>					
達成度【3】	<p>12月の民児協会会長会では，丁寧な制度説明を行った。 月々の転居や施設入所にかかる作業も予定通り。 以上のことから達成度は3とする。</p>					
R1年度の課題	<p>登録勸奨の文書を丁寧なものに変更し，文書内容に関する苦情や問い合わせが減った。 新規民生委員にもわかりやすい資料を提供できた。</p>					
R2年度の目標	<p>必要な人に制度がいきわたるよう，引き続き地域包括支援センター等の関係機関と連携して周知に力を入れる。</p>					
今後の方向性	<p>年2回の名簿の更新。 登録が必要な人に制度が行きわたるよう，引き続き地域包括支援センター等の関係機関と連携して周知に力を入れる。</p>					

事業名	話そう・つなごう・あなたの想い 終活きっかけ作り事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞					
担当係	地域福祉担当・高齢介護担当・各地域保健福祉センター					
目標No.	1・5					
事業目的	「もしもの時に備えて、自身が望む医療やケアについて、前もって考え、周りの人たちと繰り返し話し合い、共有すること（アドバンス・ケア・プランニング、以下ACPという）」の大切さを周知し、それを支援する仕組み作りを行う。					
R1年度の目標	地域福祉推進フォーラム，地域別人生会議の参加者にアンケートを実施し、「もしもの時のために、意思表示をしておくことの重要性について理解した人」の割合を80%以上とする。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
「意思表示の重要性について理解した人」の割合(%)	-	-	-	-	99% (有効回答のみ)	
地域福祉推進フォーラム参加者(人)	185	99	89	143	334	
R1年度後期の取組と評価	地域福祉推進フォーラムでは、地域医療に携わる医師が、実際に経験した看取りを紹介し、「元気な今だから始められる最後の準備」について参加者に問いかけた。 地域別人生会議は、各日常生活圏域で1回ずつ開催し、専門職や民生委員などが、ACPの必要性について理解を深めた。理解を深めた人の割合が想定以上に高かったことから達成度は5とする。					
達成度【5】						
R1年度の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・区民意識調査の結果、約6割の人が「きっかけがなかったから話し合ったことがない」と回答したことから、きっかけを作ることが必要である。 ・地域での研修会など、話し合える環境や話し合いを進めることができる人材が不足している。 					
R2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジャーなどを対象とする研修を開催し、専門職がACPについて正しく理解して共通認識を持てるようにする。 ・地域の高齢者の身近な存在である民生委員がACPについて知り、地域の茶の間等で話題にできるようにする。 					
今後の方向性	ACPを地域で広めるため、ケアマネジャーなどの専門職や民生委員等を対象に引き続き研修を開催するとともに、区民向けの啓発を行う。					

事業名	あんしん連絡システム事業					
担当係	高齢介護担当					
目標No.	1・5					
事業目的	在宅のひとり暮らし高齢者等に対し、24時間体制の受信センターに通報することができる装置を貸与し、利用者からの通報による出動や関係者等への連絡を行う。					
R1年度の目標	緊急時の連絡協力員の必要性について、相談時から説明を行う。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1(1月末)	R2
前年度末台数	606	624	588	555	489	
新規	129	64	62	45	49	
廃止	▲111	▲100	▲95	▲111	▲78	
当年度末台数	624	588	555	489	460	
台数の内訳 あ:あんしん連絡 福: 福祉電話 シ: シルバーホン	あ 550 福 69 シ 5	あ 519 福 67 シ 2	あ 486 福 67 シ 2	あ 434 福 54 シ 1	あ 415 福 44 シ 1	
R1年度後期の取組と評価	電話での問い合わせのときから、事前に協力員の必要性は説明しており、やむを得ず見つからない方はいるものの、申請者にはご理解をいただいていると思われるため、達成度は3とする。					
達成度【3】						
R1年度の課題	協力員が不在の方で身寄りもない場合、機器の取り外しの立ち合いで関係者が誰もいない場合がある。また、協力員は基本2名の登録を説明しているが、やむなく1名でも受けている状況もある。					
R2年度の目標	緊急時の連絡協力員の必要性について、引き続き相談時から説明を行う。					
今後の方向性	ひとり暮らしの高齢者への緊急対応制度として、あんしん連絡システムについては引き続き実施する。					

事業名	高齢者等あんしん見守り活動事業					
担当係	高齢介護担当					
目標No.	1・5					
事業目的	高齢者の「孤独死」や親族・地域との関わりを持たない「社会的孤立」状態を防ぐため、地域住民主体の見守り体制や民間事業所と連携した見守りネットワークを構築し、安心・安全な地域づくりを進めるもの。					
R1年度の目標	本人のプライバシーに配慮しながら、地域とのつながりが薄い高齢者が少なくなるよう、地域や関係機関とともに情報共有を行い連携していく。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1(9月末)	R2
協力事業者数の推移 全市	92	110	124	139	333	
中央区	32	35	38	39	97	
R1年度後期の 取組と評価	大手コンビニエンスストアの店舗が登録されたため、協力事業者数が大幅に増加した。 訪問時、既に自宅で亡くなられている場合もあるが、新聞が数日間分が溜まる、配食弁当が手つかずなどの異変時における関係機関との速やかな連絡は行えており、対応は良好と判断できる。以上のことから達成度は4とする。					
達成度 【4】						
R1年度の課題	他者との交流を望まれない独居高齢者などへの関わり方が難しい。					
R2年度の目標	他者との交流の有無に関わらず、生活の異変に気付けるよう日頃から注視する意識をもち、関係機関との連携した対応を行う。					
今後の方向性	地域住民主体の見守り体制や民間事業所と連携した高齢者のセーフティネットとして、高齢者等の異変時の対応を引き続き行う。					

事業名	地域包括支援センター運営事業					
担当係	高齢介護担当					
目標No.	1・3					
事業目的	<p>介護保険法に基づく、地域住民(主に高齢者)の総合相談・支援, 虐待防止, 権利擁護, 介護予防マネジメントなどを総合的に行う機関。</p> <p>主任ケアマネジャー・保健師・社会福祉士が配置され, 専門性を生かして相互連携しながら業務にあたっている。</p>					
R1年度の目標	各圏域のケア会議で出された課題について, 包括支援センターをはじめとする関係団体と連携し, 解決に向けた取り組みを進める。					
総合相談業務実績	H27	H28	H29	H30	R1(4~12月)	R2
合計(延数)	30,869	38,258	31,063	31,871	23,105	
内訳	地域・本人家族	17,004	21,077	17,967	17,184	12,376
	居宅介護事業所	5,034	5,887	4,040	4,396	3,590
	その他	8,831	11,294	9,056	10,291	7,139
R1年度後期の取組と評価	<p>各地域の関係者や関係団体と連携して, 業務運営を行っている。困難案件は必要に応じて相互で情報共有をはかり, 課題解決へ繋げている。</p> <p>圏域ケア会議で出された課題のゴミ出し支援についても, 新潟柳都圏域内の一部をモデル地区として, 障がい者施設との連携を含め検討を始めている。地域全体で取り組むまでには至っていないが, 複雑な高齢者相談が増加する中で, 管轄する各圏域の課題解消へ向けた取り組みは進めている。以上のことから達成度は4とする。</p>					
達成度【4】						
R1年度の課題	各圏域の課題や各種相談業務について, 関係団体と連携し, 解決に向けて業務遂行しているが, 年々増加する親が80歳代・子供が50歳代の80-50問題など, 困難な相談対応に時間を要している。					
R2年度の目標	各圏域のケア会議で出された課題について, 包括支援センターをはじめとする関係団体と連携し, 解決に向けた取り組みを進める。					
今後の方向性	各圏域毎の課題の解消に向けて, 区や関係機関と連携して取り組み, 高齢者が安心して地域で生活ができるよう, 区としても支援する。					

事業名	老人憩の家の活用					
担当係	高齢介護担当					
目標No.	2					
事業目的	老人憩の家は、高齢者相互の親睦や教養の向上レクリエーションを行う場として市が設置している施設、浴室や広間などを備えている。					
R1年度の目標	各施設の状況は異なるため、特徴を活かした取り組みが出来るよう、指定管理者と協力して高齢者の集いの場として維持したい。					
実績(日平均)	H27	H28	H29	H30	R1(1月末)	R2
なぎさ荘	73	70	67	70	64	
ひばり荘	41	43	39	39	34	
沼垂荘	92	93	84	82	81	
鳥屋野荘	45	44	40	37	39	
山潟荘	31	31	27	26	20	
米山荘	61	61	60	59	51	
R1年度後期の取組と評価	今年度はなぎさ荘を除く5施設の次年度からの指定管理者選定を行えた。ひばり荘は公募、その他は地元老人クラブ連合会により非公募で承認された。現状では利用者からの要望・苦情で管理者の判断に迷う際は、区へ相談のうえ対応できており、大きな問題や事故等なく適切に施設管理は行えている。以上のことから達成度は3とする。					
達成度【3】						
R1年度の課題	通いが難しい方の利用方法や、多世代交流などの有効活用につながるような企画の検討も必要。					
R2年度の目標	各施設の特徴を活かせる取り組みの検討や、利用者の拡大につながるよう、区も協力して施設の活用を図る。					
今後の方向性	各施設の状況は異なるため、特徴を活かした取り組みが出来るよう、指定管理者と協力して高齢者の集いの場として維持したい。					

事業名	障がい児者基幹型相談支援センター事業					
担当係	障がい福祉係					
目標No.	3					
事業目的	地域における相談支援の中核的な役割を担う基幹相談支援センターを設置し、相談支援体制の充実を図る。					
R1年度の目標	障がい者(児)が安心して地域で暮らせるよう「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」に係る障がい等を理由とする差別相談の窓口として周知を図る。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
支援件数	7,079	7,347	7,573	7,291 (4月～1月 6,715)	4,967 (4月～1月)	
R1年度後期の取組と評価	2月26日に「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」の周知のため啓発研修を実施し、22名参加した。アンケートでは、条例について「理解が深まった」、「やや理解が深まった」と回答した者が100%となり参加者へは十分周知が図られた。また、同条例の周知、研修等を通じて障がい者に対する差別の相談窓口として、基幹相談支援センターを広く周知できた。					
達成度【3】	以上のことから達成度は3とする。					
R1年度の課題	相談件数は、7千件台で推移しており、基幹相談支援センターの中核業務である相談業務として、一定の役割を果たしている。しかしながらセンターには毎日多種多様な相談が寄せられており、細やかな対応が求められる中、職員の質の向上が課題としてあげられる。					
R2年度の目標	相談支援員研修や事例検討を図るためのケース会議等を通じて職員の質の向上を図りたい。また障がい者を含む世帯における8050問題についても、実態を調査し支援できるよう取り組んでいく。					
今後の方向性	研修等を通じて職員の質の向上を図るとともに、8050問題については中央区の現状をまず確認し、支援の枠組みを検討したい。					

事業名	地域活動支援センター事業					
担当係	障がい福祉係					
目標No.	2・3					
事業目的	障害者総合支援法により定められた、障がいによって働くことが困難な障がい者の日中活動をサポートする事業者に補助金を交付し、障がい者の自立と社会参加活動を支援する。					
R1年度の目標	Ⅲ型事業所の補助金改正があるため、しっかりと対応できるように本課と連携しながらマニュアル等の整備を進めていく。地域活動支援センターへの助言・指導を適切に行えるよう職員視察を継続して行う。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
地域活動支援センター数(中央区)	I型:2 II型:2 III型:6	I型:2 II型:2 III型:7	I型:2 II型:2 III型:8	I型:2 II型:2 III型:10	I型:2 II型:2 III型:7	
登録者数	—	I型:180 II型:103 III型:129	I型:199 II型:104 III型:199	I型:195 II型:98 III型:294	I型:159 II型:102 III型:303	
R1年度後期の取組と評価	前期に計画した地域活動支援センターの視察を実施。地域活動支援センターの役割や支援内容への理解を深めた。また、Ⅲ型の補助金改正にともない実施した事業所向け説明会により、事業所からの補助金申請手続きはスムーズに行われており一定の効果があった。					
達成度【3】	このため、達成度は3とする。					
R1年度の課題	2か所あるⅡ型の地域活動支援センターの内1か所が地域活動支援センターから生活介護に業態が変わることから、利用者が戸惑わず移行できるよう対応する必要がある。					
R2年度の目標	引き続き地域活動支援センターへの助言・指導が適切に行えるよう視察を継続する。生活介護に業態が変更となるⅡ型は利用者に不利益にならないよう適切に障がい福祉サービスにつなげていく。					
今後の方向性	中央区内の地域活動支援センターは11施設あり、他区に比べて充実している。今後は、施設の質を高めるため、継続して視察を行うとともに、毎年行う運営検査を通して助言・指導を行っていく。					

事業名	成年後見支援センター事業					
担当係	障がい福祉係・高齢介護担当					
目標No.	3					
事業目的	市民からの相談に対応するとともに、成年後見制度の普及や市民後見人の養成・活動支援を行い、成年後見制度による支援を必要とする方々への権利擁護を推進する。					
R1年度の目標	引き続き支援を必要とする方の権利擁護のために、センターにおいて相談、助言を遂行する。 区としても、窓口来庁者や関係機関等に成年後見制度の周知を図るとともに、身寄りが全くいない等で成年後見申立が困難な方については、市長申立てにより成年後見制度の利用につなげるなど支援をしていく。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
成年後見センター 相談数(延数)	947	1,210	1,517	1,306 (4月～12月 1062件)	784 (4月～12月)	
内新規相談件数 (延数)	388	460	460	446 (4月～12月 350件)	260 (4月～12月)	
R1年度後期の 取組と評価	福祉のしおり(成年後見に関する相談窓口として成年後見支援センターを記載)を各出張所、保健福祉センターに配布するとともに、障がい者等支援事業所の集まりの中で配布した。					
達成度 【3】	市長申立てによる成年後見制度の利用について、前後期あわせて7件あり適切に対応した。 以上のことから達成度は3とする。					
R1年度の課題	高齢化の進展にともない、潜在的に成年後見人を必要としている者はまだ多くいると見られ、支援の場につないでいくことが課題としてあげられる。					
R2年度の目標	引き続き支援を必要とする方の権利擁護のために、センターにおいて相談、助言を遂行する。 区としても、窓口来庁者や関係機関等に成年後見制度の周知を図るとともに、身寄りが全くいない等で成年後見申立が困難な方については、市長申立てにより成年後見制度の利用につなげるなど支援をしていく。					
今後の方向性	高齢化の進展にともない、今後ますます成年後見制度の需要は高まるとされる。対象者と関わりのある介護事業所や障がい事業所に機会をとらえて広く周知していく。					

事業名	地域子育て支援センター事業					
担当係	児童福祉係					
目標No.	2・3					
事業目的	乳幼児とその保護者を対象に、区内8カ所の地域子育て支援センター(公立2カ所, 私立6カ所)において、親子同士の交流の場の提供や、子育て相談などを通して、地域全体で子育てを支援する基盤を形成し、育児支援を図る。					
R1年度の目標	各センター同士の情報交換や交流を継続するとともに、「中央区子育て支援センター等連絡会議」、「中央区子育て支援ネットワーク会議」を通して、区内の子育て関係施設との課題共有や職員のさらなるスキルアップを図る。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
【交流の促進】 スペース解放利用者(人)	50,132	48,384	47,272	48,046	34,913 (4月～12月)	
【子育て相談】 相談・指導件数(件)	1,791	1,559	1,442	1,593	1,410	
R1年度後期の 取組と評価	R1.11.28に、子育て支援ネットワーク会議を実施し、統計データに基づく中央区の現状と課題について研修した。またR2.1.23には、子育て支援センター等連絡会議において、保育無償化制度等についてミニ講座を開き、理解を深めた。					
達成度 【4】	参加者からは肯定的な感想が多く寄せられ、目標を概ね達成できたため、達成度を4とする。					
R1年度の課題	H29以降定例会議を重ね、施設間の情報共有や連携の基礎を確立してきた。R1は、このネットワークを生かしたより具体的な取り組みにつなげるために、どのようなテーマを選定すべきか試行錯誤した。					
R2年度の目標	定例会議を通し、施設間の情報交換や交流、課題共有やスキルアップへの取り組みを継続する。また、地域全体の子育て課題に対する具体的な取り組みについて、参加者の意見をいっそう反映させながら検討・協議していく。					
今後の方向性	少子化、核家族化、働き方改革、男女共同参画、IT化といった社会の動きとともに、子育てを取り巻く環境は急速に変化しつつあり、これらの変化に対応した子育て支援のあり方を、関係者とともに考え、構築していく。					

事業名	児童虐待防止啓発事業					
担当係	こども支援係					
目標No.	2・3					
事業目的	子育て世帯に向けて学習機会の提供や仲間づくりを支援することにより、子育ての不安や負担の軽減を図るとともに、児童虐待防止に向けて関係機関と協働で啓発活動を行う。					
R1年度の目標	児童虐待防止及び児童福祉に係る啓発活動を年10回開催する。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
実施回数	4	2	2	4	11	
R1年度後期の取組と評価	関係機関職員等を対象とした研修・講義(6回)、児童保護者を対象とした講座(1回)、市民向け啓発及びノベルティ・冊子の配布(4回)の計11回を実施した。 あわせて、保育園や学校等に訪問した際や会議開催の機会に制度等の情報共有を行い、関係職員への啓発を実施した(計40ヵ所以上)。					
達成度【4】	目標を超える回数を達成し、ネットワークのさらなる強化が図られたことから、達成度は4とする。					
R1年度の課題	ネットワークの強化に重点を置いたことから、直接、児童保護者を対象とする講座が1回に留まるなど、取り組みの対象に偏りが生じた。					
R2年度の目標	児童虐待防止及び児童福祉に係る啓発活動を年10回開催する。					
今後の方向性	今後も、関係機関との緊密なネットワークを継続させながら、児童保護者に向けての取り組みを積極的に行うなど、子育て世帯への支援を継続していく。					

事業名	みんなであつながらにっこにこ子育て応援事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞					
担当係	健康増進係					
目標No.	2・3					
事業目的	妊娠期から子育て期にわたるまでの育児に関する相談に対し、切れ目ない支援を地域の関係機関と連携・協働して行う。 保健師・助産師などの専門職に気軽に相談でき、仲間づくりができる場を提供。 子どもの成長発達や関わり方を学ぶ子育て講座を開催。					
R1年度の目標	新規の区づくり事業「みんなであつながらにっこにこ子育て応援事業」を開始。母親支援として、妊カフェ、育カフェは継続、新規事業として6～9か月児の集まれる場「育ぼる」、10か月児を対象に「10か月育ちの講座」を実施、また、体制づくりとして区内の産科医療機関との連携会議を開催。 ＜妊カフェ＞12回開催、＜育カフェ＞24回開催、＜育ぼる＞12回開催 ・参加者の参加後の気持ちの変化(不安が軽減した割合):80% ＜10か月育ちの講座＞24回開催 ・児の発達・今後の発達の見通しについて理解できた割合:80% ＜区内産科医療機関との連携会議＞2回開催					
実績	H27	H28	H29	H30	R1 _(3月は中止)	R2
妊カフェ参加者数		112人	186人	220人	165人	
育カフェ参加者数		221人 (18.4人/回)	358人 (19.8人/回)	466人 (19.4人/回)	364人 (16.5人/回)	
育ぼる参加者数					162人 (14.7組/回)	
子育て講座		乳児203人 幼児131人	乳児198人 幼児138人	乳児237人	296人 (13.4組/回)	
R1年度後期の取組と評価	1月末までの参加者アンケート結果より ＜妊カフェ＞参加し気持ちが楽になったと回答した人は93.0% ＜育カフェ＞参加し気持ちが楽になったと回答した人は93.1% ＜育ぼる＞参加し気持ちが楽になったと回答した人は84.0% ＜10か月育ちの講座＞ 成長・発達について知ることができた人は「できた・まあまあできた」をあわせて100%、見通しを持つことができた人は「できた・まあまあできた」をあわせて98.0% ＜区内産科医療機関との連携会議＞ 第1回会議を10/29開催、全7医療機関、地区担当保健師、健康福祉課保健師、マタニティーナビゲーターが参加。第2回目は3/6開催予定だったが、中止となったため、来年度早期に医療機関と日程調整し会議を開催する。 1年目の事業であるが、目標は達成できており、参加者の満足度も高い。委託先と連携し事業参加後の支援も行えていることから、達成度は4とする。					
達成度【4】	1年目の事業であるが、目標は達成できており、参加者の満足度も高い。委託先と連携し事業参加後の支援も行えていることから、達成度は4とする。					
R1年度の課題	参加後気持ちが楽になった割合は目標を達成し、アンケートからも満足度が高いことが分かるが、参加者数が減少している。周知時期の検討と、関係機関との連携が必要。					
R2年度の目標	より多くの人に参加してもらえるよう事業の周知を強化する 「妊カフェ」は、初産婦への個別案内を妊娠8か月頃から6か月頃に早め、産科施設とも連携し周知を行う。また、「10か月育ちの講座」は、第1子を持つ保護者への個別案内に加え、医療機関、子育て支援センターへチラシを設置し、参加できない方のために講座の内容をインターネット等で情報発信する。					
今後の方向性	関係機関との体制づくりと地域全体で切れ目ない支援を継続し、育児不安の軽減につなげる。					

事業名	糖尿病予防事業 ＜中央区特色ある区づくり事業＞					
担当係	健康増進係					
目標No.	4					
事業目的	区の健康課題の1つである糖尿病について、多くの区民に関心をもってもらい、糖尿病の正しい知識や予防方法を啓発する。					
R1年度の目標	<p>新たな関係機関との連携として、歯科医師会、薬剤師会と連携してイベントを開催し、参加者のニーズが高かったヘモグロビンエーワンシー測定について測定者数を増やせるように新潟県糖尿病協会と検討する。</p> <p>まんがキャラクターの「中央区健康づくりサポーター 中央子(なか ちかこ)」を活用し、糖尿病予防啓発を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)の認知度向上 ・野菜の必要摂取量、ベジファーストの認知度向上 					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
イベント来場者数				300人超	300人超	
ヘルシーランチ提供数				4,683食	2,285食 (R2.2.26現在)	
R1年度後期の取組と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・11月を糖尿病予防月間として位置づけ、11/10(日)NEXT21アトリウムで「まちなか健康フェスティバル」を開催 ・HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)測定、体組成測定、血管年齢測定、骨密度測定、フードモデル(SAT)を使用した食事バランス体験、運動体験、薬剤師、歯科医師相談等を、NEXT21内の民間事業者(スポーツジム、薬局、飲食店)、新潟県糖尿病協会、市歯科医師会等、関係機関と協働して実施 ・中央区内の9店舗でヘルシーランチを提供 ・まんがキャラクターによる糖尿病予防啓発 <p>NEXT21 1階エスカレーター脇に横断幕掲示、区だよりへの1面掲載、各種チラシ・案内等で19回啓発を実施</p> <p>イベントでは、HbA1c測定の定員を増やし100人とした。事業目的のHbA1c認知度アップ、必要野菜量の周知もアンケート結果より85%以上の方が「理解できた」としており、達成度は3とする。</p>					
達成度【3】						
R1年度の課題	HbA1c測定の定員を昨年度の倍に増やし実施し、目標は概ね達成できた。市歯科医師会、薬剤師会とも連携し開催することができ、関係機関との連携も広がっている。来場者の年齢は、60・70歳代が最も多いが、50代、40代以下の参加は合わせて4割で、若い年代の方も参加している。糖尿病予防のポピュレーションアプローチとして、より多くの方に関心を持ってもらえるよう内容を検討し、関係機関との連携をさらに広げていく必要がある。					
R2年度の目標	<p>新たな関係機関との連携として、栄養士会と連携してイベントを開催する。</p> <p>参加者のニーズの高いHbA1c測定の実施方法について、新潟県糖尿病協会と検討する。</p> <p>まんがキャラクターの新たなポーズを作成し若い世代への啓発を行う。</p>					
今後の方向性	糖尿病予防に効果のあるヘルシーランチについては、独自に提供できる店舗もできていることから、糖尿病予防月間に合わせ店舗を紹介し、区民が外食でヘルシーランチを選択しやすい情報発信や、必要があれば栄養計算に協力する等、後方支援を行う。					

事業名	特定健康診査やがん検診などの各種健診の実施とPR					
担当係	健康増進係					
目標No.	4					
事業目的	特定健康診査やがん検診の受診率向上					
R1年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診 60～64歳の平成29年度、30年度の2年連続未受診者に対して、看護職による家庭訪問を行い受診勧奨を実施する。また、自治会、コミ協、地域の茶の間等の集まりで健診の受診勧奨を実施する。 ・肺がん検診・乳がん検診 区だより、自治会回覧により検診の周知に努める。また、母子健診の会場で受診勧奨を行う。 					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
特定健康診査受診率	31.7	31.7	33.4	34.0	17.1 (R1.11.5%)	
肺がん検診受診率	9.9	10.3	10.6	10.4	10.3 (R2.2.26現在)	
乳がん検診受診率	15.7	16.7	15.9	15.2	12.9 (R2.2.26現在)	
R1年度後期の取組と評価	【取組】 <ul style="list-style-type: none"> ・41～65歳の2年連続特定健診未受診者(1,981人)に受診勧奨のリーフレットを送付し、489人に家庭訪問を実施。 ・区だより2回掲載(4, 9月)、自治会回覧実施。 ・肺がん検診会場の再考と増設。母子健診会場で受診勧奨チラシ入りティッシュを配布。 					
達成度【3】	【評価】 目標達成のために計画した取組は実施できており、特定健診受診率は昨年度の同時期と比較し1.6%上昇、肺がん検診受診者数は昨年の同時期と比較し横ばい。 以上のことから、総合的に判断した結果、達成度は3とする。					
R1年度の課題	特定健康診査やがん検診の受診率向上を目標として、受診勧奨のリーフレット送付や家庭訪問を実施しているが、受診率向上にはなかなか結び付いていない。					
R2年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・健診受診率の低い寄居中学校区の住民へ電話による受診勧奨を行う ・国民健康保険新規加入者へ特定健診受診勧奨を実施する ・自治会・コミ協・地域の茶の間等の集まりで健診の受診勧奨を実施する 					
今後の方向性	引き続き、未受診者への受診勧奨を実施し、受診率向上に努める。					

事業名		食生活改善推進委員, 運動普及推進委員の育成と活動支援					
担当係		健康増進係					
目標No.		4					
事業目的		食生活改善推進委員・運動普及推進委員の知識の向上, 地域の活動を支援する。					
R1年度の目標		<食生活改善推進委員> ・勉強会の開催 - 6回(3回コースを2回実施) ※養成講座は今年度開催なし <運動普及推進委員> ・勉強会の開催 - 3回(各グループへ1回実施) ・新規依頼事業 委員による認知症予防出前講座の実施方法検討や各種調整					
実績		H27	H28	H29	H30	R1	R2
食生活改善推進委員	勉強会	6回 延165人	6回 延148人	6回 延176人	6回 延173人	6回 延193人	
	養成講座		24人		20人		
運動普及推進委員	勉強会	3回 33人	3回 34人	3回 34人	3回 36人	3回 32人	
	養成講座	12人		12人			
R1年度後期の取組と評価		<食生活改善推進委員> 勉強会参加者数は前年度を上回り, この5年間で最も多かった。また, 勉強会は生活習慣病予防に視点をおき, 市民への働きかけのための健康増進普及講習会を地域で適切に開催できるよう支援した。 <運動普及推進委員> 昨年度より, 地域の団体からの依頼に対し, 認知症予防出前講座(体操, 脳トレ等)を実施しており, 委員への研修を本課と並行して実施し, 新規団体には同行して活動の後方支援を行っている。その結果, 認知症予防出前講座を実施できる委員や新たな脳トレのレクリエーションを実施できる委員が増え, レベルアップがみられている。 以上のことから計画どおりに実施できており, 達成度は3とした。					
達成度【3】							
R1年度の課題		<食生活改善推進委員> 委員の知識向上を図るため, 勉強会の内容を充実させていく必要がある。また, 勉強会や活動の不参加委員への働きかけの工夫が必要である。 <運動普及推進委員> 脳トレレクリエーションに取り組める委員にやや偏りがある。また, 前回の養成講座から2年経過し, 徐々に委員数が減ってきている。					
R2年度の目標		勉強会を開催 <食生活改善推進委員>6回(3回コースを2回実施) <運動普及推進委員>3回(各グループ1回実施)					
今後の方向性		<食生活改善推進委員> 単に料理講師ではなく市民の食育・健康づくりに寄与できるよう, 地域からの活動依頼を適切に受け, 実行し, 評価できるように支援をしていく。 <運動普及推進委員> 本来の体操の他に, 口腔器の体操や脳トレ等の知識や実技を学び, 自立して活動できるよう研修や研鑽の支援を行う。					

事業名	生活困窮者自立促進支援事業					
担当係	保護課 保護第3係					
目標No.	3					
事業目的	生活困窮者が困窮状態から早期に脱却することを支援するため、本人の状態に応じた包括的な相談支援を実施するとともに、多様な就労支援や生活支援事業を実施することで様々な問題を抱えた支援対象者の自立を促進するもの。					
R1年度の目標	困窮者本人、その親族や知人、民生委員など地域の方々、携わった医療や介護等の機関等と連携し、来所や訪問による面談を実施し、支援制度を適用、あるいは生活保護をはじめとする適切な福祉制度や法律相談等に繋げていく。					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
一時生活支援事業	65件	61件	44件	66件	66件	
住居確保給付金	10件	9件	9件	4件	7件	
R1年度後期の取組と評価	当区における「自立相談支援」全体としては、新潟市PSC、保護課併せて年間210～230件程である。その内、R1年度の「一時生活支援」「住居確保給付金」については上記のとおりであり、必要な支援や制度に繋げている。また、今年度の「就労準備支援」についての新たな相談はなかったが、あればNPO法人の支援に繋げていく。					
達成度【3】						
R1年度の課題	住宅確保給付金について、家賃未納の発生や退去命令が出てからの相談も多く、より早期に相談をいただくための周知が課題である。					
R2年度の目標	困窮者本人、その親族や知人、民生委員など地域の方々、携わった医療や介護等の機関等と連携し、来所や訪問による面談を実施し、支援制度を適用、あるいは生活保護をはじめとする適切な福祉制度や法律相談等に繋げていく。					
今後の方向性	今後も、相談者の状況に応じた包括的な相談支援を実施するとともに、多様な支援事業を実施することで、様々な問題を抱えた支援対象者の自立を促進する。					

事業名	子ども学習支援事業					
担当係	保護課 保護第4係					
目標No.	1・3					
事業目的	生活保護世帯(生活困窮世帯及びひとり親世帯を含む)の中学生の学習習慣を定着させ、学力向上を図る。					
R1年度の目標	<子ども勉強会の開催> ・「子ども勉強会」の参加対象者に対する参加生徒の割合 50% <学習支援員による家庭訪問実施> ・学習支援員による家庭訪問実施回数 10回					
実績	H27	H28	H29	H30	R1	R2
参加対象者に対する参加生徒の割合(%)	21	20	33.3	49	48	
家庭訪問実施回数(回)	—	12	9	6	14	
R1年度後期の取組と評価	各週末に「子ども勉強会」を引き続き実施し、参加生徒の学習習慣の定着を推進し、参加した中学3年生は全員高校への進学が決定した。 なお、新型コロナウイルス感染症予防の観点から、他区に先駆け令和2年2月末から勉強会を休止した。					
達成度【3】						
R1年度の課題	勉強会に参加した中学3年生は、全員が高校に進学するなど一定の成果が出ている。引き続き、対象となる生徒に対し一層の参加を促し、より多くの生徒に勉強会の効果を波及させる必要がある。					
R2年度の目標	<子ども勉強会の開催> ・「子ども勉強会」の参加対象者に対する勉強会への出席率 50% <学習支援員による家庭訪問実施> ・学習支援員による家庭訪問及び学習相談実施回数 10回					
今後の方向性	継続して実施するとともに、参加生徒の出席率を向上させ学習習慣の定着と対象世帯及び子どもの自立助長を図る。					